

34 占守島写真

シムシユ

明治三十一年(二八九八)頃 一帖 三の丸尚蔵館

本写真帖は、千島開拓の必要性を主張する予備役海軍大尉郡司成忠によって結成された、報效義会による占守島の拓殖事業の様子を収めている。明治二十六年に行われた探検的要素の強い第一次千島開拓は、郡司の千島拓殖演説などにより世間の大きな注目を集めた。各写真に付された解説文から、本写真帖は二十九年以降に行われた第二次千島開拓を撮影したものであることがわかる。

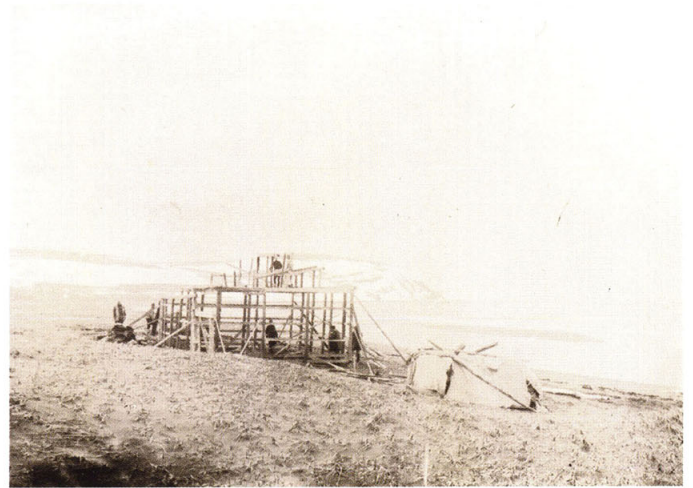
第二次開拓には報效義会の男性会員だけでなく、その家族の女性や子供が参加し、家屋を建て、農作物の開墾や漁業による自給自足のもとで定住生活が試みられた。写真には、占守島の風景とともに、雪に閉ざされた厳冬期から農作物の収穫期まで、一年の折々の様子が写し出されている。本写真帖には、三十年五月末に始まった別飛の漁舎の建設や、三十一年二月に北海道庁から貸与され結氷期の遊休期間を利用して南方の探査に向かったものの、三十二年五月にミッドウェー島沖で座礁した龍睡丸の鱈漁の様子が収められていることから、撮影時期は三十年から三十一年の期間と推測される。



34-1 占守島報效義会



34-3 開墾の様子



34-2 建設中の家屋



34-5 龍睡丸による鱈漁



34-4 占守島の小学校

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治天皇 邦を知り国を治める——近代の国見と天皇のまなざし

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 67

編集 宮内庁書陵部

宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年一月十日発行

© 2015, The Archives and Mausolea Department

The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shōzōkan
Imperial Household Agency